

はじめに

2000年より始まった藍染通信文化講座は、今回で25年目となります。これも多くの皆様が熱心に受講していただきましたおかげと、心より感謝いたします。

この藍染通信文化講座は、当社が徳島の特徴ある文化をアピールする方法はないかと思案していたところ、公社主催の染色教室で講師をしていた故アキヤマセイコ氏からお声がけをいただき、阿波の藍染を未経験の方でも染められ、教室に来られなくても体験できることを目的として始めました。

アキヤマ氏は、当講座のテキスト、および参考書となる「阿波の草染涙色」の著者であり、長年染色の研究に取り組むことで、様々な技法を考えられました。

その研究成果としては「紫紺のしずく」という、少量でも濃い色が染められるすくもの作り方や、藍生葉を使い、自然発酵で赤や紫、灰、茶、緑色などを染める方法を考案されました。これらの方法はテキストに記載されています。

アキヤマ氏は、当講座の第1回から第21回まで講師を勤められましたが、残念なことに令和3年にお亡くなりになりました。

そこで、アキヤマ氏の技術と志を受け継いだメンバーで組織された藍染通信文化講座運営委員会【チーム SHIBUKOYA】が当講座をサポートさせていただくこととなりました。

今年も皆様により深く藍を楽しんでいただけるよう、チーム一丸となって努力してまいります。

運営 チーム SHIBUKOYA (藍染通信文化講座運営委員会)

2021年発足した、アキヤマセイコ氏の技術と志を受け継いだメンバーたちで組織される当講座の運営委員会。

メンバーは徳島県内の公共施設などで染色指導を行い、アキヤマ氏の研究成果や、染色技術の普及に努めている。



協力 新居 修氏 (新居製藍所)

明治初期より続く藍師の6代目。
2017年度「現代の名工」に選ばれる。
藍種子の提供やスクーリングなどで本講座に協力。



カリキュラム (全10回)

3月

藍の種を植える

藍草からいろいろな色を染めるため、種を送りますので植えてください。
作り方は詳しくテキストで説明していきます。実習に必要な藍を収穫してください。種は1アール分の量をお送りします。



4月

布を絞る

絞りの技法5種類を解説します。藍染のために用意しましょう。



5月

リュウキュウ藍を育てて染める

沖縄やインド、中国等で育っている藍で、多年草です。この藍は寒さに弱いので、ハウスや室内で冬を過ごし、春に外に出して挿し木で増やし、さまざまな方法で染めます。



6月

沈澱藍の作り方と染め方

①リュウキュウ藍やタデ藍を使って藍を沈澱させる方法です。図解と実習を行います。
②それ以外に新しく塩を使って沈澱させる方法を図解実習します。その液は11月に使用します。



7月

藍生葉で青を染める

藍生葉をミキサー方法、塩揉み方法等で、絹と木綿を染める実習をします。
データ用の見本布、実習用の生地をお送りします。



8月

生葉で七色を染める

①ウールの原毛や絹糸を湯漬けにして染める方法です。
②藍の生葉を発酵させて水に浸け、その液を使って染めます。



9月

すくもを作る

藍の乾燥葉を使って、少量のすくもを作ります。



10月

すくもを藍建てする

自作のすくもを使って藍建てし、染めます。



11月

沈澱藍を使って描く

沈澱藍を建て、文字や絵を描きます。



12月

藍の色止めの一つとして柿渋染

藍のさまざまな方法で7つの色を染めました。型染めの技法で、インテリアを作ります。



講座のすすめ方は…

3月から12月まで、毎月1回テキストや材料などをお送りします。
お送りするテキストやご案内するネット上の動画などを参考に、ご自分で学習していただけます。
テキストなどに、ご不明な点がございましたら、メール、FAX、郵便などで質問を受付けます。
また、希望者の方には、現地徳島にお越しいただき、様々な実習を体験していただくスクーリングを予定しています。

受講者の声

◎ 鈴木 かおり 様 (東京都 在住)

藍を育て始め3年、生葉と乾燥葉染めまで体験、次は染を自作したいと思い受講しました。テキストと動画で分かりやすく、また質問にも丁寧にご回答いただきました。スクーリングは、先生方の詳しい指導と藍好きの方々の楽しい会話で、充実した3日間でした。来年は今年失敗したリュウキュウ藍を育て、幅広い色を染めたいと思います。

◎ 西岡 優子 様 (香川県 在住)

毎年生葉染めをするために育てていた苗が猛暑で全滅してしまい、藍についてもっと学びを深めたいと受講しました。毎月届くテキストと動画をお手本に藍と向き合う日々。疑問点があれば丁寧にご回答くださるので初めて試す染色方法にも安心して挑戦できました。徳島での充実したスクーリングもとても貴重な体験となりました。

◎ 佐川 麻穂 様 (茨城県 在住)

毎年蓼藍を育て染めていたのですが、もっと藍の活用法を学びたいと思い受講しました。念願かない様々な染色方法に挑戦し、特に沈澱藍がうまくできた喜びは大きいものでした。スクーリングでは先生方や藍師の方の親身なご対応や仲間との出会いが励みになりました。課題が進まないときもありますが焦らず続けたいと思います。

スクーリング風景 シビックセンター・技の館 (令和6年10月)

